



今年度もこども支援アセスメント勉強会を開催します！

昨年度大変好評をいただいた勉強会ですが、いざ支援に役立てようとしたときにわからなかったところ、つまづいてしまったところはありませんか？ 今回も本郷先生を講師にお迎えし、事例及び課題分析の手法についての講話をいただきます。支援場面での課題をより焦点化できるようスキルアップを目指しましょう。詳細は当所ホームページを御覧ください。

日 時：令和5年2月15日（水）10時～12時、15時～17時【WEB】
講 師：本郷 佳江 先生（Y's communications 代表）
テーマ：応用行動分析シートの活用③「行動分析を基にした支援の実践と評価」
申込締切：令和5年1月6日（金）



申込みの際には、事前アンケートへの御協力をお願いいたします

令和3年度こども支援アセスメント勉強会の振り返り

日時・テーマ	内 容	参加者アンケートより									
1回目（WEB：64名参加） 令和3年11月15日 応用行動分析シートの活用① 「こどもの困った行動を整理・分析する」 ABC分析を用いて、児の問題行動について整理する考え方を学びました。	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">問題行動の原因やきっかけはあるか？</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;">思わぬことが強化子になっていないか？</div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> A.事前 (Antecedent) → B.行動 (Behavior) → C.結果 (Consequence) </div> <p>*問題行動の「前」「後」にも着目する →法則性から、きっかけについて考える →児が誤学習をしている可能性に気付く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書き出し分析することで見えてくることがあると気付いた 誤学習の根元を学習できた気がした 問題行動を起こす原因を探ると、支援方法がわかってくることを感じた 									
2回目（会場：35名参加） 令和3年12月22日 応用行動分析シートの活用② 「行動分析から具体的支援を考える」 ストラテジーシートを用いて、望ましい行動へ導くための事前対応や工夫について考えました。	<p>問題行動が起こってしまった時の対応も共有しつつ、事前対応の工夫により望ましい行動へ導くことが目的</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">ストラテジーシート [記入日 年 月 日] [R.5]</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">A：事前</td> <td style="width: 33%;">B：行動</td> <td style="width: 33%;">C：事後</td> </tr> <tr> <td>事前の対応の工夫</td> <td>望ましい行動</td> <td>目的方・楽しい活動</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事前・事後の環境の工夫を行なってもおまじしない行動が起きたとき！</td> <td>起こってしまったときの対応</td> </tr> </table> </div> <p>*児への伝え方 →「表現は肯定的に」「曖昧な表現は×」</p>	A：事前	B：行動	C：事後	事前の対応の工夫	望ましい行動	目的方・楽しい活動		事前・事後の環境の工夫を行なってもおまじしない行動が起きたとき！	起こってしまったときの対応	<ul style="list-style-type: none"> グループワークで、自分では思いつかなかった視点を知ることができた。 スタッフとの連携をとり、支援にあたることの大切さを学べた どう行動してほしいか、そのためにどのような環境が必要か整理することが必要と理解した
A：事前	B：行動	C：事後									
事前の対応の工夫	望ましい行動	目的方・楽しい活動									
	事前・事後の環境の工夫を行なってもおまじしない行動が起きたとき！	起こってしまったときの対応									

昨年参加されていない方も申込み可能ですが、事前に前回までの内容を御確認いただくようお願いします。昨年の勉強会の内容については、こども支援アセスメント通信 Vol.9, 10により詳しく記載されています。当所ホームページに掲載されていますので、参考にいただき、是非参加について御検討ください。その他御不明な点は、当所健康づくり支援班にお問い合わせください。

当所ホームページ、問い合わせ先
 →裏面下部に記載

気になる子どもの アセスメントミニ講座

「よく人や物にぶつかる」「着替えがうまくできない」
このようなお子さんはボディイメージが未発達なのかもしれ
ません。今回はこちらをテーマにお送りします。




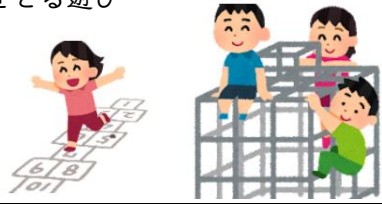
よく聞く言葉だけど、具体的に
どういうことか知らないなあ…

今回のテーマ **「ボディイメージ」**

「ボディイメージ」を日本語でいうと、「身体図式」「身体の自己像」と表されます。

私たちは自分の身体の大きさ、傾き具合や力の入り具合、関節の曲げ伸ばしにより自分の手や足が今どこに位置しているかなどを無意識に認識しています。距離感を測って人や物を避けながら歩いたり、片足立ちをしながら靴下を履いたりすることには、ボディイメージの形成が不可欠です。また、道具を使う際にはその道具もボディイメージの一部に組み込まれます。ハサミで紙を切ったり、三輪車に乗ってぶつからないように動かしたり、大人が車を運転したりするときにそれに当たります。

また、ボディイメージは、大きく次のふたつの要素に分けられます。

	地理的要素	機能的要素
どのようなイメージ要素？	身体の大きさや輪郭、手足等の位置をイメージする 例：背中やお尻など、見えないところを自分の身体の一部として認識する	自分の身体がどこまで、どんなふう動くかをイメージする 例：障害物を避けられそう、台から落ちずに渡れそうなど、運動をイメージする
未発達（曖昧）だ？	無理やり狭いところを通ろうとする 相手や物との距離感が掴めずぶつかる等	できそうな活動にも参加しづらい 他人の動きを真似することが難しい 等
発達を促す遊びの例	触れ合い遊び、おしくらまんじゅう、トンネルくぐり等 *触覚を多く感じられる遊び 	ジャングルジム、大人の身体によじ登る、けんけんぱ、バランスボール等 *身体の動かし方や力加減を意識する遊び、バランスをとる遊び 

ボディイメージの発達には、上記を含め身体を使った遊びを多く体験することが良いと言われています。その一方で、ボディイメージが未発達なお子さんは身体を器用に動かすのが苦手なことが多く、難易度が高い運動にチャレンジすると苦手意識が出やすいことに注意が必要です。出来ないことを繰り返すのではなく、お子さんが「できそう」と思える範囲の運動・活動を工夫し、少しずつ丁寧に進めることが大切と思われます。

また、ボディイメージにはいろいろな感覚の発達が複合的に関わっているため、「ボディイメージが未発達だから」という言葉ですべてを説明することもできません。感覚の発達にでこぼこが生じている可能性を念頭に置き、お子さんの様子を注意深く観察しながらの支援ができるとよいと考えます。



これまでの通信は当所ホームページに掲載されています。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sd-hohuku/reha-reco-kodomo-assesment.html>
(「仙台 リハレコ」で検索) QRコードはこちら⇒



[発行・問い合わせ先]
宮城県仙台保健福祉事務所健康づくり支援班
〒985-0003 宮城県塩竈市北浜4丁目8-15
TEL/FAX: 022-363-5503 / 022-362-6161
メール sdhwfzke@pref.miyagi.lg.jp